

【学校経営ビジョン】子どもに「今日も学校に来てよかった!」と感じさせる学校・学級経営～よき伝統の継承・学校内共通の壁の確立・子どもの後ろに保護者を感じる風土の醸成						
重点目標	評価項目	自己評価コメント	総合評価	改善及び対策	学校関係者評価コメント	評価
1 生徒指導の4つのポイント (自己決定の場の提供、自己存在感の感受、共感的な人間関係の醸成、安全・安心な風土の醸成)を生かした学級経営及び専科指導の充実と児童一人一人が自分の成長を感じる教育活動の充実(児童の居場所づくり+絆づくり)	1	生徒指導の4つのポイントを生かした学級経営を行い、児童の自己肯定感を高めたり、可能性を引き出したりする「褒めて伸ばす教育」を推進している。	3.3	○今後も全ての教育活動において生徒指導の3機能を生かしたり、褒めて伸ばす教育を意識した学級経営を日常的に行ったりすることで児童の自己肯定感を高めたり、可能性を引き出したりしていく。 ○その子自身のよさ、家庭背景などを知るためにたくさん話を聞き、その子のよさに気づかせていく。	○学校全体がまとまっていて、子ども達が落ち着いて学習に取り組んでいる。 ○「褒めて伸ばす教育」は、自己肯定感を高めるためにも大事な指導。子ども達に寄り添った指導をお願いしたい。 ○認められ、褒められ、子どもの笑顔が増えるのは、親も子もうれしいことだと思う。 ○子どもの自己肯定感が高まり、信頼、意欲につながれば、楽しい学校生活になると思う。 ○児童とのたくさんの対話で、児童自身の良さや可能性を見付け、児童にフィードバックできれば素晴らしい取組だと思う。 ○「褒めて伸ばす教育」を目標とする取組は高く評価する。 ○玄関に掲示されている新聞の記事は、励みになると思う。 ○「褒めて伸ばす教育」の一つとして、校長先生がトイレのスリッパの並び具合を給食時に発表し、児童のやる気を引き出している事などは、とても素晴らしいと思う。小さなことでもよいので、その子自身のよさを見付け、今後も「褒めて伸ばす教育」を続けて欲しい。 ○すべての児童が褒めてもらえるよう小さなことも目を配っていただきたい。	3.8
	2	児童の実態に応じたお互いの良さを認め合い、助け合い、相手を思いやる道德教育の充実に努めている。	3.3	○考え、議論する道德の授業になるようさらに授業改善を図っていく。 ○学級の言語環境もとても大切である。教師の言語環境も意識して整えていく。 ○今後も児童の道德性を高めるために体験学習の充実や多様な価値に触れる機会の提供、家庭・地域社会との連携に取り組んでいく。	○多様な子ども達が共に学ぶ学校だからこそコミュニケーション能力を身に付けてほしい。 ○道德の授業の在り方を工夫して、考え議論する授業を展開してほしい。 ○何を教えるかによって、偏った教育になる心配がある。自分で考え、議論し、違う意見にも耳を傾けられる児童になってほしい。 ○地域のまつりや行事に積極的に参加し、多様な価値観にふれてほしい。 ○道德の在り方の充実に努めていることを評価する。すごい事だと思う。 ○道德はどんなことにもつながるので、大切に続けていただきたい。 ○地域の方や保護者に協力してもらい、たくさんの体験学習に取り組み、多様な価値観に触れることにより、児童の道德心を育ててほしい。 ○保護者の評価が高いのは大変良い。	3.4
	3	授業や学校行事等(学級活動、避難訓練、保健指導等)により自他の命の大切さに気付き、自分の命をしっかりと守れる教育を推進している。	3.6	○避難訓練等の行事を行うと共に、危険予知能力を高める常時指導を行っていく。 ○安全教育に関する指導については、担当職員が全校一斉にオンラインでスライドを配信して専門的に全体指導し、その後、学級担任が学年に応じて補足するなど、自他の生命の尊重及び日常生活の安全について、丁寧に指導に当たっている。	○避難訓練は、自分の命を守る訓練であることを認識させ、定期的な訓練を通じて、災害時の適切な行動がとれるようにしてほしい。 ○ただ訓練を実施するのではなく、是非、学びが学校生活、登下校に生かされるように願っている。 ○命の大切さを、自転車の安全運転、登下校の安全な歩行等、指導、徹底してほしい。 ○命の大切さを指導していただく教育に感謝。 ○下校時の注意を校内放送で周知された際、具体的な様子やケガの内容について説明があり分かりやすかった。児童もよく理解していた。 ○命を守る為の行動として、日頃から訓練等は必要である。交通ルールや自転車の乗り方等、警察や市役所等にも協力していただき実践的な指導をしてほしい。 ○一部、交通ルールを守らない児童がいるので、徹底して指導を行ってほしい。(児童、保護者ともに)	3.6
	4	学級目標や児童が個人で設定した学期目標の達成状況を振り返り、児童がよりよい成長を願う学級活動の実践に努めている。	3.2	○年度初めや学期初めに児童の意見を取り入れた学級目標の設定や個人目標の設定を行い、定期的に振り返りを行うことで自分の成長を実感できる学級活動の充実が必要である。 ○必ず目標の達成状況を振り返る時間を学級活動等で設定していく。	○目標達成状況を振り返る時間を設定することは素晴らしい。子ども達の成長が楽しみである。 ○目標を立てて努力することは大事。けれども努力すれば良いという訳ではなく、期待したり計画通りに行かなくても現実を受け入れる心の持ち方も大事になってくる。 ○クラスの目標、本人の目標が具体的に知りたい。実現に向けて努力してほしい。 ○個人目標を定期的に振り返ることは、児童の成長に大事である。 ○児童が自分で決める(設定する)目標は、たとえ達成できなくても次につなげられるようにしてほしい。振り返りが大事ですね。 ○目標を決め、目標を達成する為には何をすべきか、など、計画的に指導したら、その都度振り返りもでき、目標達成に近づくとと思う。 ○高い目標だけでなく、達成できる目標も設定してもらい、達成する喜びを教えてもらいたい。	3.4
	5	自分の成長を振り返る「キャリア・パスポート(おいろぐ)」の活用によるキャリア教育の充実を図っている。	3.2	○年度初めや夏季休業中にキャリア・パスポートの研修や説明を行い、使い方、活用の仕方を十分理解して進めていく必要がある。 ○ICT支援員によるキャリア・パスポート(おいろぐ)記入方法についての研修をお願いする。	○「親の生き方を学ぶ会」は素晴らしかった。親の職業、生き方を知り、将来への希望、夢、目標など、それぞれに学ぶ体験になったと思う。 ○キャリア教育は、将来設計の力を育む教育としてこれからは必要である。 ○オープンスクールでの保護者の職業観、人生観にふれた後の感想が知りたい。子ども達がこういう機会に恵まれたことがよかったと思う。 ○「親の生き方を学ぶ会」では、児童から「よかった」「ためになった」との声が聞かれたので大成功だったと思う。情報がすぐ手に入る環境だが、保護者の実際の生の声、経験などを聞くことは少ないと思うので、よい機会だったのではないかと。 ○キャリア・パスポートを活用できる場を考えたい。 ○毎年、職員の評価が低い。理解されていないのではないかと。	3.5

評価 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

	<p>6 全教育活動において自分の考えをアウトプットできる場の設定と教師による適切な評価により自分の成長を感じる教育活動に取り組んでいる。</p>	<p>○職3. 2P、見2. 9P、保2. 9Pで、総合評価も「ほぼ期待どおり」を0. 1P下回った。 ○職員は児童のアウトプットの場を多く提供していると認識しているが、児童や保護者は、自分の考えを自信をもってしっかりと発表することはまだまだできていないと認識している。</p>	<p>2.9</p>	<p>○安全・安心で自分の居場所がある学級経営を行っている必要がある。 ○学級や学年で全員発表の場を定期的に取り入れていく。 ○授業研究会を通して、よりよい授業、子どもが主役の授業づくりについて研究を深める。</p>	<p>○お互いの考え方を認め合う学級経営を引き続き継続してほしい。 ○全員発表の場を定期的に取り入れていくべきである。 ○評価があまり良くないと出ています。(実態が見えない。) ○人前で話すには、積極性と自信が必要だと思います。家族や友達以外の人と話す機会が普段の生活においてどのくらいあるのか、コミュニケーションの力とアウトプットの力の強さは比例していると感じます。 ○自分の意見をまとめ、正確に相手に伝えることは、大人になっても大事なことである。児童同士の討論の場を提供したり、主体的に活動できる授業を考えてほしい。 ○発表が苦手な児童もいるので、工夫して全員が発表できる機会の確保を。</p>	<p>3.0</p>
	<p>1 年間授業時数の1割以上「子どもたちが主役の授業づくり(わさびの授業)」を実践している。</p>	<p>○職3. 1P、見3. 3P、保3. 0Pで総合評価も8割となり、期待どおりの評価となった。 ○教師が脇役に徹し、児童の思考など先を読み、児童の微細な変化に気付く「子ども達が主役の授業(わさびの授業)」づくりを行ってきた。</p>	<p>3.2</p>	<p>○教材研究をしっかり行っていき、引き続き、子どもが主役の授業づくり(わさびの授業)の研修を行っていく。 ○本年度の研修の成果と課題を整理し、来年度の研修に生かしていく。</p>	<p>○子どもが主役の授業づくりの効果に期待。 ○子どもが主役の授業づくり、子どもの成長が楽しみ。 ○「子どもが主役の授業のあり方」は素晴らしい。 ○班で活動したりクラス単位で活動したりと、個々のみでなく児童同士が協力しながら児童全員が主役の授業に期待したい。 ○職員の評価が低いのは、職員自身に不安があるのではないかな。</p>	<p>3.3</p>
<p>2 授業力向上と学力向上(児童主体の授業づくり)</p>	<p>2 児童がタブレット等のICT機器のよさを感じ、学習方法を自ら選択するなど、主体的に学習に取り組もうとする意識の醸成に努めている。</p>	<p>○職3. 2P、見3. 5P、保3. 6Pで総合評価も8割5分を超え、期待どおりの評価となった。 ○毎週水曜日は、児童がタブレットを持ち帰って自宅学習をする日としている。 ○職員は、「Googleオープンデー」の機会を生かして、ICT担当職員や研究主任が中心となって、タブレットを授業に効果的に活用するあり方について、日々、研鑽に努めている。</p>	<p>3.5</p>	<p>○単元を通して、ICTの活用が効果的な場面を教材研究で考えておく必要がある。 ○今後もICT担当、研究主任、管理職等が中心となって、活用しやすい校内のICTシステム作りを行っていく。 ○教職員のICT活用能力に関する研修が必要である。</p>	<p>○子ども達がICT機器を駆使して意欲的に取り組んでいることは素晴らしい。今後も大いに期待したい。 ○誰でもどこでも気軽に学習できるように、うまくタブレットが使えれば本当によいと思う。ゲーム等ですぐ変更できる場所もあり、難しいと思う。 ○期待通りの評価は素晴らしいと思う。継続して活用してほしい。 ○毎年、ICTが進んでいくことを感じている。学習に対する意欲など、良い影響を与えることを期待。 ○小さい時期からのタブレット等のICT機器に触れることは良いことである。適正な活用を期待。 ○タブレットの活用が苦手な児童もいるので、引き続き、取り残さないよう取り組んでもらいたい。</p>	<p>3.8</p>
	<p>3 教師による授業の終末・単元末・学期末の計画的な学びの見届けと、児童自身が見通しをもって学習に取り組むなど児童主体の授業を実践している。</p>	<p>○職3. 1P、見3. 4P、保3. 1Pで総合評価も8割を超え、期待どおりの評価となった。 ○児童に力が付いているか、市教委提供のミニテストや、授業中や単元終了時のたしかめテストや単元テスト、CRTテストで確認を行い、確実な基礎・基本の徹底を図っている。</p>	<p>3.3</p>	<p>○教師による授業の終末・単元末・学期末の計画的な学びの見届けを確実に行う。 ○単元テストにおいて児童自身が目標点数を設定し、目標達成に向けた学習への取組を行うなど児童主体の学習方法になるようにする。</p>	<p>○児童主体の授業を実践していく中で、個に応じた指導、支援、習熟の違いを見落とすことなく実践に取り組んでほしい。 ○学級での差が出ないように、学年単位での計画的な指導を期待する。</p>	<p>3.7</p>
	<p>1 地域人材(学習支援ボランティアや読み聞かせ等)を活用した授業実践に積極的に取り組んでいる。</p>	<p>○職3. 0P、見3. 4P、保3. 3Pで総合評価も8割を超え、期待どおりの評価となった。 ○地域人材活用人数は、12月1日で延べ299人であり、地域人材の積極的な活用を図っている。</p>	<p>3.3</p>	<p>○読み聞かせ、あいさつ運動、見守り隊等の日常的な学習支援ボランティアへの感謝集会等を行い、支えてくださっている地域の方への感謝の気持ちを伝える場の設定が大切である。</p>	<p>○学校は地域づくりに欠かせない重要な拠点といわれているとおり、地域の人とのつながり、様々な人との協働で身につく子ども達の探究能力に期待する。 ○オープンスクールで地域の方々とのふれあう機会ができたのではないかな。 ○11月のオープンスクールの様子がTVニュースで紹介され、本校の取組が広く評価されたのは良かった。 ○感謝の気持ちを伝えていただきありがとうございました。 ○様々な活動でのボランティアの方々との協力は素晴らしいこと。11月のオープンスクールでは、親子で参加型というのが良かった。ただ見る参観より心に残るものになったのではないかな。 ○地域とのふれあいは人間形成のためには必要である。たくさんの方々のボランティアの方々とのふれあうことにより郷土愛も育んでほしい。 ○多くの方に支えられてもらっていることは大変うれしく思う。</p>	<p>3.8</p>
<p>3 郷土愛を育むふるさと教育の推進(ふるさと教育の充実)</p>	<p>2 児童の主体性を生かした地域貢献活動(お礼の活動、ボランティアなど)を実施している。</p>	<p>○職3. 0P、見3. 3P、保2. 8Pで総合評価もほぼ期待どおりの評価となった。しかし、保護者で「ほぼ期待どおり」の3. 0Pを0. 2P下回った。 ○見守り隊や民生委員の方々へ日々の見守りへ感謝する集会を実施した。 ○学校から地域に発信する活動などの保護者への周知が不十分である。</p>	<p>3.1</p>	<p>○児童も地域社会の一員として自分たちにできることを考えさせ、地域の方と触れ合う機会を設定したり、地域貢献活動を実施したりすることで郷土愛を育む必要がある。 ○校内だけでなく地域貢献活動としての委員会活動を検討していく。</p>	<p>○地域公民館の活性化を推進することによって、学校、地域、保護者の営みができてくる。ひいては郷土愛を育むことになる。 ○スーパーで出会った児童から直接お礼を言われた委員もいたとのこと。その児童の気持ちがうれしい。 ○地域の行事等の参加で郷土愛が生まれると思う。 ○自治公民館等でのボランティア活動に子ども達が進んで参加できるようになるとよいですね。 ○児童が地域の方のボランティアによって守られていることを知らない保護者が多いのではないかな。 ○児童だけでなく、保護者も地域の方々へ感謝できるよう、引き続きボランティアの方々への活動を情報発信してもらいたい。</p>	<p>3.2</p>

評価 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

	<p>3 社会に開かれた教育課程を展開し、児童の郷土愛を育成している。</p>	<p>○職2. 8P、児3. 6P、保2. 2Pで総合評価もほぼ期待どおりの評価となった。しかし、職員、保護者で「ほぼ期待どおり」の3. 0Pを下回った。 ○職員の「社会に開かれた教育課程」の趣旨理解が必要である。 ○児童は上長飯地区は好きであるが、保護者は、子どもに将来、都城へ貢献してほしいという認識は低い。</p>	<p>3.1</p>	<p>○社会に開かれた教育課程の趣旨を踏まえた教育課程の編成が必要である。 ○上長飯地区の人・もの・ことを取り入れた教育課程において、上長飯地区のよさを児童に伝えていく必要がある。 ○社会に開かれた教育課程の地域・保護者への周知が必要である。</p>	<p>○学校行事で地域の方々とのふれあいの場をつくる努力をされていると感じる。 ○地域の方とのふれあいの場に積極的に参加してほしい。 ○大変責任の重い問題です。運営委員の一人としてしっかり取り組むことを改めて自覚した。 ○子ども会や公民館から脱会、脱退する家庭が増えることで、地域での活動に参加せず地域に関わることがなくなっていくのは当然だと思う。しかし、児童は、地域の行事やお祭りに参加したい気持ちを持っている。その気持ちをもつためには、保護者や地域の方々の理解が必要ではないか。 ○学校行事等へ地域の方を招待したり、地域の行事へ児童が参加したりと、地域の方々とのふれあいの中で上長飯の良さを知ってほしい。 ○毎年、保護者の評価が低いのが気になる。</p>	<p>2.9</p>
	<p>1 業務の効率化及び休暇取得しやすい環境整備による働き方改革を推進し、教職員が授業を中心とした質の高い教育活動に専念できる環境になっている。</p>	<p>○職3. 0P、保3. 5Pで総合評価も8割5分を超え、期待どおりの評価となった。 ○教職員の働き方改革が、保護者へ認識されてきている。 ○教職員の時間外勤務時間が4.5時間以内になった職員は、60%であった。(23人/38人)</p>	<p>3.5</p>	<p>○教職員の意見を聞きながら更なる業務の効率化及び簡略化に努める。 ○教職員以外の特別支援教育支援員やスクール・カウンセラー、業務支援員等学校を支える職員と連携しながらよりよい学校運営を目指す。</p>	<p>○働き方改革が一層具現化、効率化され、期待通りの評価が得られ素晴らしい。引き続き、職員間の連携を図り、保護者にも理解され認識されることを期待する。 ○夏休み中のフレックス制、スーパーフライデーなど、働き方への工夫が感じられ大いに評価したい。 ○通知表が年2回になったことは負担が減ったのでしょうか。 ○「フレックス制」など先生方が働きやすい環境になることは、どんどん導入してください。 ○「フレックス制」良い事だと思います。今後も導入してほしい。 ○教職員以外で学校を支える専門の職員をたくさん活用すべきである。 ○「フレックス制」の導入を評価します。引き続き、職員に寄り添って良い環境づくりに努めてもらいたい。</p>	<p>3.9</p>
<p>4 教職員の資質向上(人づくり)</p>	<p>2 校内研修の充実(外部講師による研修や学校や職員のニーズに合った研修の実施など)を図り、職員の資質向上に努めている。</p>	<p>○職3. 4P、保3. 3Pで総合評価も8割を超え、期待どおりの評価となった。 ○ICT活用研修としてGoogleアプリの教育関係専門の方や、コンプライアンス研修として県教職員課の職員を講師として研修を実施するなど、今の職員に必要な研修を、適宜、実施した。</p>	<p>3.3</p>	<p>○本年度の校内研修の振り返りを行い、成果について継続して取り組み、課題については改善し校内研修の充実を図る。 ○来年度も学校課題に応じた外部講師の招聘や校外研修を実施し教職員の資質向上に取り組む。</p>	<p>○職員の資質向上のためには、校内研修の充実も必要だが、教職を離れた職場体験等を行い、人間力向上に努め視野を広げてほしい。 ○引き続き、外部講師を活用して、職員の資質向上に努めてもらいたい。</p>	<p>3.3</p>
	<p>3 校内OJTの推進を図り、若手教員(教職経験10年未満)の困り感の解消を図っている。</p>	<p>○職3. 0Pでほぼ期待どおりの評価となった。 ○初任者指導教員及び主幹教諭による初任者や2年目教員の指導、研究主任による全職員を対象としたミニ研修講座の実施など、計画的・日常的に実践されている。また、学年主任を中心とした学年団がよく機能しており、学校組織としての教育体制が整っている。</p>	<p>3.0</p>	<p>○校内OJT推進のための職員研修を実施する。 ○校内OJT推進のための校務分掌を行い、校務部長や学年主任を核に校内OJTを推進し教職員の資質向上を図る。</p>	<p>○初任者指導、若手の育成に力を注いで、教職員の資質向上に期待。 ○若手の教員が相談しやすい環境が必要。他の学校の教員とイベント等を通じて交流し、多くの助言をいただき、若手教員の視野を広げ資質向上を図ることに期待。 ○若手教員の指導は大変重要であることを、ベテラン教員が再認識して、チームとして支えてもらいたい。</p>	<p>3.2</p>
	<p>4 管理職は、日頃から教職員との対話を大切にし、必要な指導助言及び支援を行うことにより教職員が日々の業務等に対して成就感・達成感をもてるようにしている。</p>	<p>○職3. 2Pで総合評価も8割となり、期待どおりの評価となった。 ○管理職は、日常的に教職員との対話を行い、常に「報告・連絡・相談」がスムーズにでき、職員が成就感・達成感をもって仕事ができるよう、心がけている。</p>	<p>3.2</p>	<p>○教職員に対して報連相を徹底し、組織で対応できるようにする。 ○相談等に対して、今後の流れ、支援の仕方等を具体的に指導助言し、教職員が成就感・達成感をもちやすいようにする。</p>	<p>○職員間の共通理解は大規模校にとっては特に大事。児童一人一人に寄り添った教育を心がけてほしい。 ○管理職の先生方を中心に全体的に連携がとれていると見受けられる。 ○管理職の目配り、気配りによって、教職員の働きやすい環境ができてきていると思う。 ○引き続き、職員に寄り添って、チーム上長飯で頑張っていたいただきたい。</p>	<p>3.8</p>
<p>※ 自己評価コメント欄の数字は、「職」が職員の評価の平均ポイント、「児」が児童、「保」が保護者のアンケートの平均ポイントです。</p>						